

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●スプリンターズSはママコチャが優勝

10月1日(日)に行われたスプリンターズS(G I)では、ママコチャ(牝4歳/栗東・池江泰寿厩舎)が優勝、JRA・G I初挑戦初制覇を果たしました。これによりクロフネ産駒は2005年から19年連続のJRA重賞勝利を達成。これはパーソロン産駒(1969~1987年)と並ぶ史上最長タイ記録となります。

●11歳馬が平地競走で勝利

10月1日(日)の4回阪神9日・第12レースではマイネルブロンプト(騾11歳/栗東・坂口智康厩舎)が1着となりました。平地競走で11歳(以上)の馬が勝利するのはJRA史上初のこと。障害競走ではカラジが12歳、オジュウチョウサンが11歳で中山グランドジャンプを勝利した例などがあり、これを含めても史上2位タイの高齢勝利記録となります。

●西村淳也騎手がJRA通算300勝を達成

10月1日(日)の4回中山9日・第1レースではマーゴットファブが1着となり、同馬に騎乗した西村淳也騎手(栗東・フリー)は、現役55人目となるJRA通算300勝(3660戦目)を達成しました。

●重賞ウイナー3頭の競走馬登録抹消

2020年・2021年アルゼンチン共和国杯(G II)などの勝ち馬オーソリティ(牡6歳/美浦・木村哲也厩舎/JRA通算12戦5勝・海外2戦1勝)、2021年中日新聞杯(G III)の勝ち馬ショウナンバルディ(牡7歳/栗東・松下武士厩舎/JRA通算39戦6勝)、2021年キーンランドC(G III)などの勝ち馬レイハリア(牝5歳/美浦・田島俊明厩舎/JRA通算18戦4勝)は、8月31日(木)までに競走馬登録を抹消されました。オーソリティは北海道新冠町の優勝スタリオンステーションで種牡馬、レイハリアは北海道新ひだか町の谷岡牧場で繁殖馬となる予定。ショウナンバルディは地方・大井競馬に移籍しています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ドンフランキーが人気に応じて東京盃(大井)をレコード勝ち

東京盃(Jpn II、10月4日、大井、1200m)は、逃げた単勝1.4倍で圧倒的人気のドンフランキー(池添謙一騎手、牡4歳、父ダイワメジャー)が、4コーナー手前で一旦交わされながらも直線で差し返し、1分10秒0のレコードタイムで快勝。1馬身差の2着に2番人気のリュウノユキナが入り、ヘリオスは6着、3番人気のケイアイドリーは9着、オマツリオトコは11着に敗れています。

●レディスプレリユード(大井)でアーテルアストレアが重賞初制覇

レディスプレリユード(Jpn II、10月5日、大井、1800m)は、8番手から追いつけた6番人気のアーテルアストレア(武豊騎手、牝4歳、父リーチザクラウン)がゴール前で差し切りました。単勝1.8倍で断然人気のグランブリッジがクビ差の2着、ライオットガールは3着、テリオスベルは4着、2番人気のスピーディキック(浦和)は5着、3番人気のヴァレーデラルナは6着でした。

●最後のダービーグランプリ(盛岡)は大井の三冠馬ミックファイア

全日本的なダート競走体系整備のため、今年限りで廃止されるダービーグランプリ(10月1日、盛岡、2000m)は、先手を取ったミックファイア(牡、父シニスターミニスター)が、食い下がる同じ大井からの遠征馬マンダリンヒーローを1馬身半差で振り切り、単勝1.1倍の支持に応じてデビュー以来の連勝を7に伸ばしています。

●南部杯(盛岡)にカフェファラオ、レモンポップらが参戦

南部杯(Jpn I、10月9日、盛岡、1600m)は、昨年の覇者カフェファラオが中心、レモンポップが続き、以下タガノビューティー、イグナイター(兵庫)、レディバグ、ジオグリフ、ノットウルノ、デンコウリジエールまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1凱旋門賞～エースインパクトが無敗で戴冠

現地10月1日にフランスのパリロンシャン競馬場で行われたG1凱旋門賞(3歳上牡牝、芝2400m)は、地元フランスのエースインパクト(牡3歳)が後方3番手追走から直線で抜群の末脚を披露して優勝しました。1馬身3/4差の2着に先行策から直線でいったんは先頭に立った昨年の愛ダービー馬ウエストオーバー。そこから短アタマ差の3着に最後方から追い込んだ昨年のG1パリ大賞の勝ち馬オネスト。日本から単騎参戦したスルーセブンシーズは後方待機から直線で馬群を縫うようにして追いつきましたが4着に終わりました。デビューから6連勝での戴冠となったエースインパクトは連覇した英チャンピオンSなどG1に4勝を挙げたクラックスマンの初年度産駒。今年1月のデビューから4連勝で6月のG1仏ダービー(芝2100m)を制すと、ひと息入って迎えた8月のG2ギヨームドルナノ賞(芝2000m)も勝ってここに臨んでいました。管理するJ.C.ルジェ調教師と手綱を取ったC.デムーロ騎手はともに2020年のソットサス以来となる凱旋門賞2勝目です。